

最初の行に提案タイトルを記載し、1行空けてから本文(高校名、氏名は記入しない)

〇〇町での耐震診断事例とこれからの展開

文章には適宜、章、節を設ける

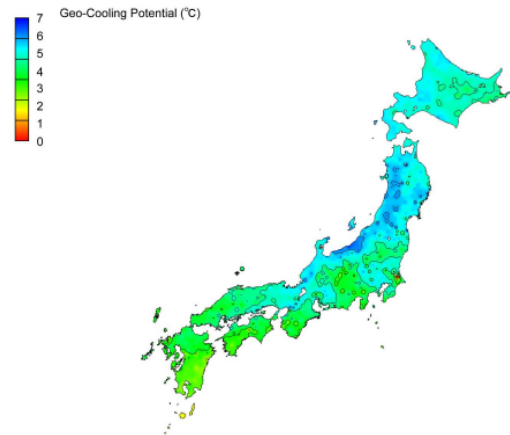
1. はじめに

20世紀、人類は急激な科学技術の進歩を果たし、それまでの産業・経済から大幅な発展を遂げた。製品は次々と大量に生産され、市場は世界規模に拡大していった。建築分野においても、19世紀末に開発された鉄骨造、鉄筋コンクリート造が20世紀になって広く普及し、高層化、大規模化が図られると共に、世界中いたる所に、共通の様式の建物が建てられるようになった。建築材料も木や石などの天然材料から、鉄、コンクリート、アルミやプラスチックなど、人工材料が主流となり、様々な工業製品が登場するようになった。

しかし、一方でそのような発展は、地球の資源を大量に消費し、大量の廃棄物を蓄積していった。また、次々と開発される新しい技術や製品においては、その安全性が十分に検討されないままに生産が行われ、生産過程において汚染物質が排出されたり、製品に有害物質が含まれていることがあった。その結果、20世紀後半には、地球規模での資源の枯渇、環境汚染が心配されるようになった。このような状況を省み、ローマクラブは人類の将来をシミュレートした「成長の限界」¹⁾、そして「限界を超えて」²⁾を発表した。この予測結果は、人々に大きなショックを与えるものであったが、人類が持続可能(Sustainable)な社会に向かって“生きるための選択”を示唆するものでもあったといえよう。そして21世紀を迎えた今、我々は大量生産・大量消費型の社会を脱却し、循環型の社会の構築へ向かおうとしている。……

2. 〇〇町での耐震診断の概要

古代、縄文人は竪穴式住居に住んでいたが、彼らが竪穴を掘った理由は、夏は涼しく、冬は暖かいためということである。図1は秋田県立大学松本真一教授がまとめた、8月の平均気温と地中2m深さの平均温度の差を表したものである。これによれば……



図、表には番号を付けて、文章中に表す

図1 8月の平均気温と地中温度(深さ2m)の

1枚の用紙の文字数は、図、表を含め1,200字以内

3. ○○町での耐震診断結果のまとめと考察

建築物は多くの資源を消費するとともに、解体される時は大量の廃棄物となる。表1は、日本における産業での資源の利用量と廃棄物量についてまとめたものである。……

表1 資源利用量、廃棄物量に占める建設産業の割合

	全産業	建設産業	割合
資源利用量	24 億トﾝ	11 億	46%
廃棄物量			
排出量	4 億トﾝ	0.82 億トﾝ	21%
リサイクル量	3.1 億トﾝ	0.45 億トﾝ	15%
最終処分量	0.84 億トﾝ	0.37 億トﾝ	44%
不法投棄量*	39 万トﾝ	34 万トﾝ	87%

出典：建設省、環境庁、厚生省調査

4. 耐震診断・補強を他の地域に適用するための提案

4.1 ○○町での耐震診断を行ったときの問題点・改善点

4.2 スムーズに耐震診断を行う手順の提案

4.3 耐震診断後、耐震補強を行ってもらうための戦略

5. まとめ

参考文献、参考にしたHPなどを最後にまとめて記載

【参考文献】

- 1) ドネラ・H・メドウズ他（大来佐武郎 監訳）：成長の限界，ダイヤモンド社，1972.
- 2) ドネラ・H・メドウズ他（茅陽一 監訳）：限界を超えて，ダイヤモンド社，1992.
- 3) 山本良一 編：エコマテリアルのすべて，日本実業出版社，1994.